

「17歳にできること」

都城西高校 2年 清水 美咲

「有権者になるまであと1年の17歳の私たちにできることはなにか。」

この疑問を中心に私の意見を述べようと思ったとき、やはり私たちにできることは選挙に主体的に参加することだと思いました。それではなぜ主体的に参加しないのかまた新たな疑問が出てきました。特に若者の選挙率は低いと言われていて平成 27 年に選挙年齢が満 20 歳から満 18 歳に引き下げられたのにも関わらず、選挙が始まると必ずと言っていいほど「若者の選挙率低い」とよく耳にします。なぜ若者の選挙率が低いのでしょうか。わたしは3つの原因を考えました。1つ目は学校などの教育機関での政治の教育が足りないと言うことです。政治について中学校から公民という教科で学び、高校では私たちの学年から教育方法が新課程になったため公共という教科で学びます。わたしはこの6年では政治を学ぶには年数が少ないと思っています。現在小学校から英語に取り組んでいるのと同じように政治についても小学校の教育課程から学んでいくことで政治がより身近に感じやすく普段の生活において政治のことを話題に話すことは当たり前となり習慣化されるのではないかと考えました。2つ目はインターネット・SNS の普及です。今ではスマホでニュースも見れるし、YouTube や TikTok などの動画サービス、インスタグラムや X(旧ツイッター)などの SNS サービスが若い人たちの生活の一部になっています。なので昔は家でテレビを見る家庭がほとんどでしたが見るものがなくなっているため政治に関するニュースを多く取り上げているテレビ番組を見ることや新聞を読む機会が極端に少なくなっています。だから若い人たちの目に政治についての話題が止まりやすいようにするための工夫が必要になってくると思います。SNS を上手に活用することで若い人たちにも政治について伝わりやすいと思います。3つ目は選挙のしくみを理解している人が少ないことです。実際わたし自身を含めてクラ

スの人に選挙についてよく理解しているかと尋ねたら大半の人が「理解していない」と言っていました。選挙や政治について難しい用語やしくみがまだ若い人たちに浸透していないため選挙に行こうという気になりにくいにも原因があると思います。

この3つの原因を少しでも解決できることで若い人たちの選挙率を上げることができると思います。選挙は私たちの未来に直結しているとわたしは思います。今17歳のわたしたちにできることは選挙に関心を持ち、あと1年で未来の日本を決める有権者になるという自覚を持つことです。また、親が選挙に投票に行くときについて行ったり、自分の地域の選挙から興味を持って自分の望む公約を掲げている立候補者を見つけていくのも私たちにできることです。「わたし一人の一票なんて」と軽く思わないで私たちが大人になったとき、望んでいた未来の日本にするのは私たちしかいません。私自身もこのような機会をいただけるまで選挙について深く考えていませんでしたが、自分の意見を述べると同時に選挙の大切さに気づくことができました。この大切さを多くの若い人に広めていくことで素晴らしい未来につながると信じたいです。